



緑の募金

# GJR 現代林業

G e n d a i R i n g y o u

東日本大震災地域の  
仲間を応援しよう!  
全国キャンペーン今月まで。

再生プラン。私は林業をこうしたいシリーズ④  
座談会 我ら林業人の心意気ここにあり

11  
November  
2011

# 森林と人間相互の健康を目指して 日本森林保健学会の活動

上原 巖 東京農業大学教授

2010年4月に、医療、福祉、教育、保育、森林関係の専門家によって、各地域の森林と人間相互の健康を考える学会として日本森林保健学会が発足しました。

その取り組み内容について、上原巖・東京農業大学教授に紹介していただきます。



第1回学術総会の様子（於：東京農業大学 2011年）



日本森林保健学会 理事・運営委員の皆さん

森林と人間相互の健康を目指した日本森林保健学会  
長い不景気が続き、多くの人々が自分の仕事や健康  
などにおいて、将来への不安を感じています。また、今  
年3月に発生した東日本大震災および福島原発のメルト  
ダウン事故により、さらにその傾向に拍車がかかりまし  
た。国内の自殺者の数はすでに12年以上連続で年間3  
万人を超え、「病んでいる」という言葉がよく見聞きされ  
ています。

精神科医の神谷美恵子さん（1914—1979）  
は、こうした精神的な病い、不安感を癒す場としての自  
然の重要性を指摘し、「少なくとも深い悩みのなかにある  
ひとは、どんな書物によるよりも、どんなひとのことばに  
よるよりも、自然のなかにすなおに身を投げ出すことによ  
って、自然の持つ癒しの力—それは彼の内にも外にもは  
たらいている—によって癒され、新しい力を恢復するの  
である」と、代表的な著書「生きがいについて」の中で  
書いています。

そこで、医療、福祉、教育、保育、そして森林関係  
の専門家によって、各地域の森林と人間相互の健康を  
考える学会—日本森林保健学会がこのたび発足しました  
（2010年4月設立。学会事務局は東京農業大学内  
に設置）。



病院隣接のヒノキ放置林を再生、活用しての作業療法（2010年）  
（鹿児島県霧島市 霧島桜ヶ丘病院 左は作業療法士、右は患者さん）

現在、森林の「セラピー」の分野では、村おこしや開発事業、観光、営利的な趣が先行し、肝心かなめの地域住民の健康増進や生活習慣病の予防などは後回しにされている傾向がうかがえますが、日本森林保健学会では、各地域の高齢化や過疎化、放置林の増加など、地域の抱えている様々な問題に具体的に向き合い、各地域における人間と森林の健康づくりを研究すること、またそれらをふまえた地域社会、地域環境の構築に取り組むことを趣旨としています。

2011年9月現在までのところ、地域病院周辺の放置林を整備・再生しながらの医療利用、里山を整備・活用しての幼児保育、限界集落の森林でのワークショップ、学術総会などを各地で開催してきました。

ぜひ皆さんと各地の森林と人間の健康づくりに取り組んで参りたいと思っておりますので、どうぞお気軽にご参加ください。

研究会HP

<http://www.forest-humanhealth.com/>

お問い合わせ先

03-5477-2269

[email@forest-humanhealth.com](mailto:email@forest-humanhealth.com)

（東京農業大学教授 上原 巖）





限界集落の森林でのワークショップ（長野県北相木村 2010年）



放置林での整備作業  
（福岡県柳川市の福祉作業所での取り組み 2010年）



障害者の方々と地域の森林公園での散策（福岡県柳川市 2010年）